



# おにぎり通信

2022年3月26日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

1月から出されていた「まん延防止措置」がようやく終わりとなりましたが、新型コロナウイルスにかかる人は、まだまだ沢山います。新型コロナウイルスにかかっても病気が重くならないためには、ワクチンを受けることが大切です。おにぎりをお渡ししている皆さんの中でも、10名ほどの方が、昨年、2回のワクチンを受けました。現在、3回目のワクチン接種に向けて、準備を進めているところです。

住民票や身分証明書を持っていなくても、ワクチンを受けることができます。まだワクチンを受けてないけど受けて、という希望のある方は、おにぎり仲間の手助けしますので、お声がけください。

## 福祉行動を希望の方は、

## おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい



四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会

連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時～6時)

むろうさいせい  
【室生犀星】

「ふるさとは遠きにありて思ふもの」ではじまる詩で有名な室生犀星は、今日から60年前の昭和37年3月26日に、72歳でこの世を去りました。犀星は、幼い頃に苦勞をした人です。石川県金沢で、女中の子として生まれてすぐに養子に出され、養母にひどい扱いを受け、貧しい生活の中で学校をやめて早くから働きに出ます。

犀星が、つらい生活の中で才能を見せたのは、文学でした。十代の若さで、地元の新聞に多くの俳句が載るようになります。やがて、より自由な詩に惹かれるようになり、本格的に詩をつくるために、仕事をやめて東京へと出ます。冒頭の詩は、

ふるさとは遠きにありて思ふもの　そして悲しくうたふもの　よしや　うらぶれて異土の乞食となるとても　帰るところにあるまじや　ひとり都のゆふぐれに　ふるさとおもひ涙ぐむ　そのころもて　遠きみやこにかへらばや　遠きみやこにかへらばやと詠われます。将来への不安の中でも、東京で強く生きていく意志を感じます。それから犀星は、詩人として注目され、結婚をして、小説も書くようになります。数年後につくった「第二の故郷」には、

・・・そのうち父を失った　それから故郷の家が整理された  
東京がだんだん私をそのころから　抱きしめてくれた　・・・  
みな自分と一しょの市街だと　一つ一つの商店や　うら町の垣根の花までが懐かしく感じた　・・・庭のものは年年根をはつて行つた　深い愛すべき根をはつていつた

その後、年齢を重ねるにつれて、つくられる詩の数は減っていきませんが、一方で味わいが出てきます。戦後すぐの頃の作品です。

諸くらひ　生き永らへること　はたといやになりけり　諸くらひ  
あ　飽きもせぬに。